



大豆情報 第2号

令和7年7月18日
J A む な か た
北筑前普及指導センター

今年は梅雨明けが6月27日と非常に早く、梅雨明け後は高温乾燥で推移しています。7月下旬以降に播種する場合は、土壤水分や播種後の天候に留意して、確実に出芽・生育するように気をつけましょう。

1. 播き直しの目安

播種7日後、出芽が少なく、健全株が7割以下と見込まれる場合、播き直しの目安となります。大豆の生育量を確保できる7月中であれば、播き直しを検討してください。

- ① 乾燥状態による出芽不良
 - ・土中の種子を掘り返し、種子が一度土中で出芽しそのまま乾燥していれば、出芽しない可能性が高いため、播き直しを検討してください。
- ② 湛水による出芽不良
 - ・播種後の湛水に対して、出芽が少なく、種子の腐敗などが確認された場合は、播き直しを検討してください。

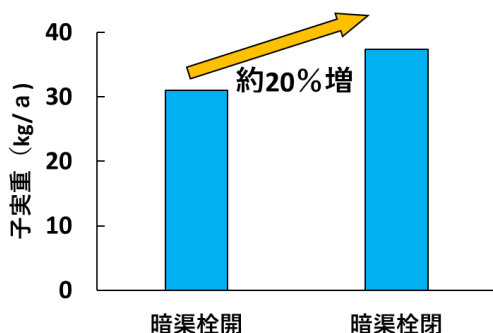
2. 遅播きのポイント

- ① 播種量を増やす
 - ・7月下旬に播種する場合、生育不足となりやすいため、播種量を増やし生育量の確保を図りましょう。（詳細はこよみを参照）
- ② 基肥の施用
 - ・基肥を窒素成分で2kg/10a程度施用し、生育量の確保を図りましょう。
- ③ うね高の調整
 - ・最下着莢高が低くなるため、うね高が高くなるようにしましょう。

3 排水および乾燥害対策

- ① 排水対策
 - ・排水不良のほ場は、**周囲溝と畝立て溝を設置して排水口とつなぎ**、麦わらの詰まりを確認するなど、排水対策を徹底しましょう。
- ② 乾燥対策
 - ・乾燥害軽減として、**暗渠栓を閉め、土壤水分を保持する**ことも有効です。
※暗渠栓閉めを行う場合は、排水対策として明渠を施工しましょう。

暗渠栓の開閉が大豆の収量に及ぼす影響



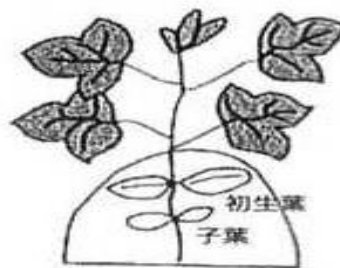
試験期間：令和6年
試験場所：福岡県筑紫野市
ほ場条件：麦前に明渠
品種：ちくしB5号
試験区：暗渠栓開、暗渠栓閉（播種後）
播種日：7月19日
（福岡県農林業総合試験場試験結果改変）

4. 中耕・培土のポイント

中耕・培土は、雑草対策や倒伏防止、排水対策、不定根の発生促進などの効果が期待でき、多収栽培のためには、重要な作業です。下記の表を目安に実施してください。



1回目



2回目

【中耕・培土の目安】※雑草の多い場合は、中耕をできる限り早めましょう。

1回目	本葉3葉期に子葉節まで培土（播種後2週間頃）
2回目	本葉5葉期に初生葉節まで培土（播種後3週間目頃）

① 生育期間に合わせた管理

・遅すぎる中耕・培土は、根を切断するため、開花10日前までに実施しましょう。

② 土壌水分の見極め

・土壌が乾燥した状態での中耕・培土は、不定根が発生しにくく、増収効果が小さいため、中耕・培土前10日間の降水量が20mm以下では控えましょう。

5. 雑草対策

雑草の種類により除草剤の効果が変わるため、種類を確認し防除を行いましょう。

除草剤名	対象雑草	処理時期	使用量	希釈水量 /10a	使用回数
ポルトフロアブル	一年生イネ科雑草 スズメノカタビラを除く	イネ科雑草3～10葉期 但し、収穫30日前まで	200～ 300ml	50～ 100ℓ	2回
大豆バサグラン液剤	一年生雑草 イネ科を除く	大豆2葉期～開花前まで (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで	100～ 150ml	100ℓ	1回
パワーガイザー液剤	一年生雑草	大豆出芽直前～3葉期まで (雑草発生始期～2葉期)	200～ 300ml	100ℓ	1回

※ 茎葉処理剤は、アサガオ類が蔓化する前までに茎葉全面散布するのが有効です。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳

※農薬登録状況：令和7年7月14日時点

